

令和7年度第5回 広報モニターアンケート結果

調査期間:令和8年1月26日~2月2日

調査方法:Google フォーム

調査対象 広報モニター20人

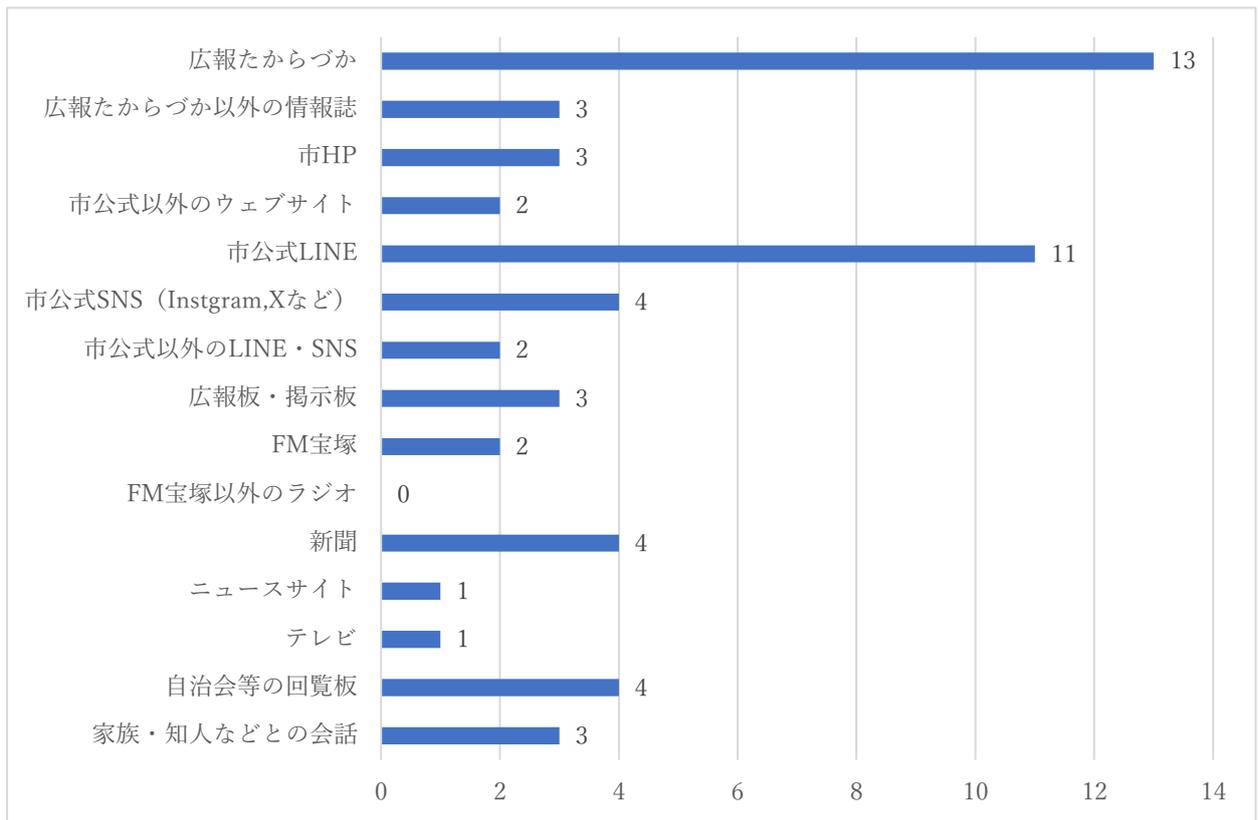
回答数 14人

※自由記述は原文ママ。ただし、「特になし」等は省略

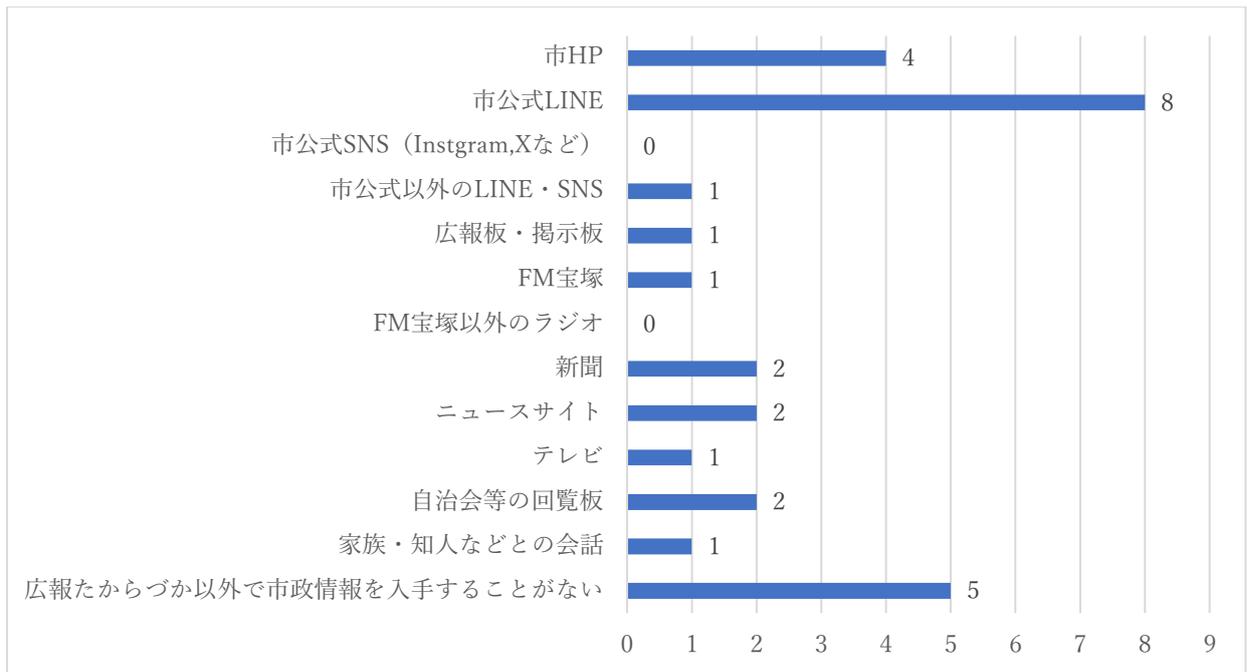
市にまつわる情報の入手方法について

物価・人件費の高騰や宅配員の人材不足から、将来的に広報誌の全戸配布の維持が厳しくなると予想されています。代替手段として広報誌のデジタル化を検討するため、市政情報の入手手段や広報誌に関する意識について調査します。

Q1. 宝塚市にまつわる情報(イベント、グルメ、市政情報など分野は問わない)を普段どこから入手していますか?(複数回答可)



Q2. 水道料金の値上げや 補助金制度などの市政情報を、広報たからづか以外でどこから入手していますか?(複数回答可)

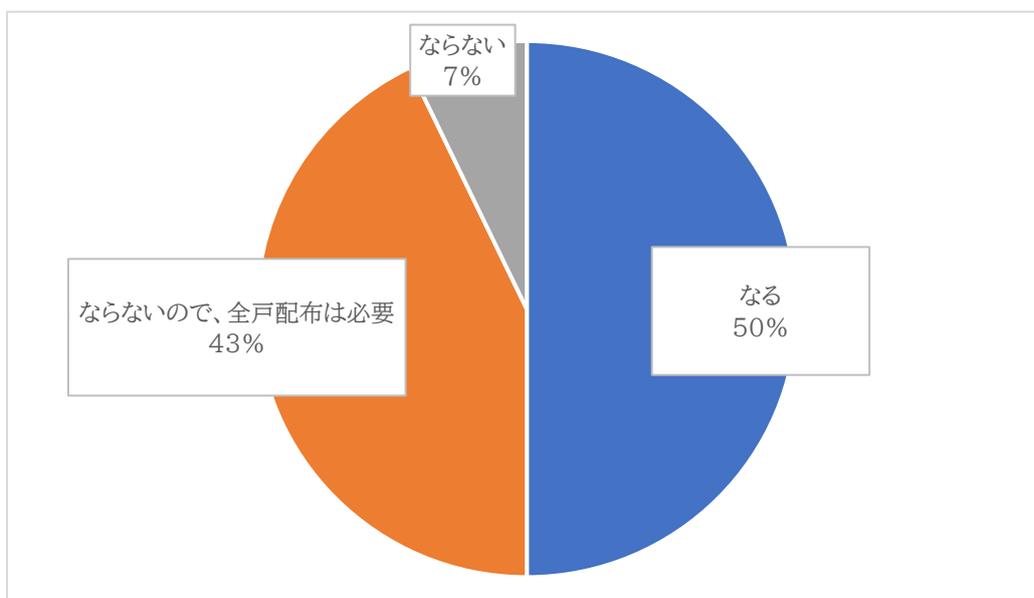


宝塚市ではこれまでに希望世帯へ戸別配布することを検討しましたが、管理コストの都合上、実現には至っていません。そのため、デジタル版広報誌を導入してLINEやSNSでお知らせする代わりに、紙の全戸配布を廃止して、公共施設への配架のみとすることなどを検討しています。

先進的に取り組んでいる滋賀県大津市や群馬県高崎市のデジタル版広報誌をご覧いただいた上で、以下の設問にお答えください。

- ・大津市のデジタル版広報誌は[こちら](#)
- ・高崎市のデジタル版広報誌は[こちら](#)

Q3. デジタル版広報誌は紙の広報誌の代替手段になりますか？



Q4. Q3 の回答理由を教えてください

【代替手段に「なる」と回答した理由】

- ・ 毎回紙で読み捨てるのが面倒だから
- ・ 広報誌を活用していましたが慣れれば同等になると思う。
- ・ 無くさないし、通勤などでゆっくり見れるのがいいです。
- ・ ペーパーレスの世の中でももしも広報誌がペーパーで欲しい人は街のスーパーなどに広報誌置いて頒布すれば良い
- ・ アクセスしやすいから
- ・ 大半の市民がネットを駆使しているのに、紙媒体を配布するのは予算の無駄遣い。配布される市民としてもゴミが増えるだけ。デジタル広報を見られない環境にある人もいると思われるが、公共施設での掲示や自治会の回覧で対応できるのではないか。
- ・ 宝塚市の将来を見据えた無理のないコスト削減のためには、多少不便さを感じたとしても市民側がデジタル版広報誌の活用に慣れる必要があると考えます。紙の広報誌がどうしても必要な場合は、民生委員や自治会など地域の手を借りることも必要かと思えます。

【代替手段に「ならない」と回答した理由】

- ・ 何でもかんでもデジタル化が現代の進歩的趨勢であると言う風潮にはある点で疑問を生じる。その時その時だけの広報内容はデジタル化で良いが、市政の中核内容や市民としての重要内容は紙配布が必要。
- ・ デジタルだと読みにくいし、あらゆることがデジタル化していてスマホで読んだり確認しなければならないことが多いので、更にそれが増えるのがしんどいから。デジタルが苦手な人もいるし、公式ラインも自分にとって必要ではない情報が流れてくることもある中大事なことが埋もれそう。スマホの容量やデータ通信料等もそれぞれの負担になる。白黒印刷にする、必要最低限の内容にする、発行の期間を空ける、冊子でなく A3 両面 1 枚にする等やりようはあるのでは？ なんだかんだ広報誌で得る情報も多いので、なくなるとわざわざアクセスしなければならなくなり、多分色々情報を取り逃しそう。
- ・ 紙媒体だからこそ前頁見ている。デジタルになると必要項目しか読まない。
- ・ ならないが、全戸配布が必ずしも必要かと問われると、そうでもない。しかし、全ての市民に情報が行き渡る事は絶対条件なので、在宅しかできない、デジタル媒体に触らない人を置いてけぼりにしてはいけない。
- ・ 目に付く手元に紙の広報紙があると手に取って読もうと思う。一方、デジタル版はスマホやタブレットを手に取って、自分から広報のサイトをのぞくという行為が必要になってくる。読まなくなる人が、増えるように思う。
- ・ 広報誌を毎月見られている市民が多い。紙ペースが大事
- ・ デジタル版広報誌が紙の広報誌の代替にはなりません。情報格差が起きます。高齢者はスマホをあまり閲覧しません。高齢者はスマートフォンや PC の操作に不慣れな人も多いのでデジタル版へのアクセス自体が困難です。すべての市民がインターネット環境やスマホを所有しているわけではなくデジタル化は特定の層を情報から排除するリスクがあります。紙の広報誌はポストに投函されるため、読

もうとしなくても目に入ります。一方、デジタル版は自分から情報を取りに行かないと見ることができない能動的な行動が必要となり、そこに格差が生まれます。見に行ける人は有効な情報を知っている、見に行かない(元々市の広報誌に興味のない人たち)見ることができない人たちとの差ができます。地域情報や行政情報を広く周知するためには紙の広報誌が必要です。

Q5. 他市のデジタル版広報誌の良かった点、改善点があれば教えてください

- ・ 見やすく紙で見ると変わらない
- ・ カラーリングやデザイン
- ・ 人気記事ランキングが良かった。市民が注目しているポイントが分かりやすい
- ・ 簡潔でイラストも入り見やすかったが広告が幅をきかせていたのが気になりました。
- ・ 情報量が多く、さらに詳しく知りたい場合には別のサイトに飛べるのがデジタル版ならではのよい。ただ、全体を見渡せなくて読みにくい。パラパラ紙面をめくって読みたい。
- ・ 注目情報、福祉、育児等のタブがもう少しわかりやすいほうがいい
- ・ バックナンバーが見られるのは便利。
- ・ 大津市のデジタル版広報誌は、PC から閲覧した場合、画面の両サイドにカテゴリーやデジタルブックの案内が配置されており、スクロールしなくても一目でわかりやすいデザインがなされていると感じます。しかし、UI が固定されているのか私の PC(15.6 型のディスプレイです)では両サイドの下部が切れて表示されてしまっていて全画面表示にしなければ全ての情報を表示できません。フォントやアイコンに凝っていて現代風のおしゃれな雰囲気ですが、アクセシビリティ機能がなく、文字の拡大や音声読み上げ、外国語対応などができません。またスマートフォンから閲覧した場合はとても不親切な設計になっており、左上に表示されるハンバーガーメニューをタップしても、カテゴリーや人気記事ランキング、直近のイベントなどの表示が無く、トップページからひたすら下にスクロールしていくしかありません。PC 版とスマートフォン版で操作感に違いがありすぎて、個人の使用するデバイスの違いによって得られる情報に差が生まれてしまう懸念があります。

高崎市のデジタル版広報誌は、PC から閲覧した場合、アクセシビリティ機能が充実しており、初期設定の文字が大きくて画面に余計な選択肢がない分一見シンプルで見やすいですが、目的の情報にたどり着くまでにスクロールが長すぎると感じます。PC でスマートフォン用サイトを閲覧した時のような間延び感が否めません。カテゴリ分けも煩雑で目的の情報にたどり着くまでに時間がかかりすぎるので、結局紙面形式で広報誌を閲覧した方が便利に思えます。しかしデジタルブックの用意がないため、紙面形式で広報誌を閲覧したい場合は市 HP で PDF データをダウンロードする必要があり、誰もが気軽に閲覧できる状態ではありません。スマートフォンから閲覧した場合も PC から閲覧した場合と全く同じページが表示されるため、個人のデバイスの違いによる情報格差は生まれづらいよう工夫されていますが、いずれにしても最新の記事がわかりづらいので、紙面形式の広報誌の方が見やすいです。スマートフォンの場合は設定次第で PDF データをダウンロードなしで閲覧可能ですが、「〇月号広報高崎一括ダウンロード」と記載されているので、知識がなければ敬遠してタップを躊躇される可能性があります。

Q6. その他ご意見・ご感想

- ・ 紙媒体の広報誌は断然デジタルよりも読みやすい。見返しやすい。必要ならばいつでも簡単に取り出せる。なので、基本的に私も LINE 等で情報は得るが、紙を重視しています。経費節減案としては切りたいところではあるけれど、私個人としても紙が欲しい。
- ・ 宝塚市文化政策課の後援申請が時間かかりすぎ。
- ・ 宝塚市公式 LINE やHPも見っていますが、実際には自分が興味を持つ記事や必要な記事のところしか目を通しません。紙の広報誌であれば、かならず1ページ目からページをめくって目を通すので、自分が興味のない、今の自分にはあまり関係のない記事でも読むことができます。デジタルになるとそんなこともなくなるのではと思います。自分に関係のある記事だけ読むようになると、自分にあまり関係のないことに対する興味関心が薄れてしまい、他人事になってしまうのではないかという危惧があります。
- ・ 私個人としては、その月に更新された最新記事のみを全て閲覧したいと考えます。ですので、宝塚市HP トップページのカルーセル記事内に表示されている広報誌発行のお知らせをトップページ固定表示に変更し、広報誌の電子書籍版内の記事をクリック(またはタップ)することで詳細記事や申し込み画面に飛ぶことができるようになれば、特別なサイトを作成しなくても十分なのではないかと感じています。新しいサイトを立ち上げたりたくさんの機能を付けたりするよりも、すべての市民へ情報をわかりやすく届けて便利に使ってもらってこそそのデジタル活用かと思います。